

報道関係者 各位

令和5年 7月28日

【照会先】健康局 予防接種担当参事官室
ワクチンシステム高度化推進専門官 小島 啓史
(内線 2377)
リスクコミュニケーション係長 上田 麻亜弥
(内線 2388)

(代表電話)03(5253)1111

**「HPV ワクチンに関する調査」
(理解度に関する調査、情報周知の実態に関する調査)
の結果を公表します**

厚生労働省では、HPV（ヒトパピローマウイルス）ワクチン（※）について、接種対象者本人やその保護者における理解の傾向等について調べるため、「HPV ワクチンにおける理解度に関する調査」を実施しました（令和5年1～2月）。

また、自治体における情報周知の現状、および自治体担当者が抱えている問題意識について調べるため、「HPV ワクチンにおける情報周知の実態に関する調査」も併せて実施しました（令和5年1月）。

このたび、これら2調査の結果を取りまとめましたので公表いたします。詳細は別添資料のとおりです。

（※）HPV ワクチンに関する詳細については、厚生労働省ホームページ「ヒトパピローマウイルス感染症～子宮頸がん と HPV ワクチン～」をご参照ください。

<https://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou28/index.html>

【調査結果概要】

調査1 HPV ワクチンにおける理解度に関する調査（対象：接種対象者・保護者）

○ 子宮頸がんやHPV ワクチンに対する理解（別添資料 P7～14）

<子宮頸がんについて>

- [子宮頸がんという病気]については、接種対象者本人の 69%、保護者の 91%が「知っている」または「少し知っている」と回答した（同 P7）。
- [子宮頸がんは深刻な病気だと思う]については、対象者本人の 76%、保護者の 85%が「非常にそう思う」または「そう思う」と回答した（同 P9）。
- [HPV は、性交渉の経験のある女性であれば、誰でも一生に一度は感染する可能性がある]について、「非常にそう思う」または「そう思う」と回答したのは、対象者本人の 37%、保護者の 46%であった（同 P9）。

<HPV ワクチンについて>

- [HPV ワクチン]については、対象者本人の 28%、保護者の 9%が「知らない（聞いたことがない）」と回答した（同 P7）。また、[HPV ワクチンの接種方法・必要な手続き] [政府が、HPV ワクチンの接種をお勧めする取組（積極的勧奨）を再開したこと]についてはいずれも、対象者本人の 53%、保護者の 23%が「知らない（聞いたことがない）」と回答した（同 P7～8）。さらに、[政府が、1997～2005 年度生まれの女性に対し、HPV ワクチンを公費で接種できる機会を提供していること（キャッチアップ接種）]については、対象者本人（高校 2 年相当～1997 年度生まれの女性）の 53%、保護者（小学校 6 年～高校 3 年相当の娘の保護者）の 26%が「知らない（聞いたことがない）」と回答した（同 P8）。
- [HPV ワクチンは、子宮頸がんを予防するのに有効である]について「非常にそう思う」または「そう思う」と回答したのは、対象者本人の 48%、保護者の 54%であった。また、[公費で接種できる HPV ワクチンで、50～70%の子宮頸がんが予防できる]について「非常にそう思う」または「そう思う」と回答したのは、対象者本人の 33%、保護者の 47%であった（同 P10）。
- [HPV ワクチンは重要である]について「非常にそう思う」または「そう思う」と回答したのは、対象者本人の 49%、保護者の 52%であった。一方、[HPV ワクチンは安全である]について「非常にそう思う」または「そう思う」と回答したのは、対象者本人の 22%、保護者の 23%で、対象者本人の 59%、保護者の 55%は「どちらともいえない」と回答した。[HPV ワクチンは有効である]については、対象者本人の 43%、保護者の 49%が「非常にそう思う」または「そう思う」と回答したが、対象者本人の 50%、保護者の 45%は「どちらともいえない」と回答した（同 P14）。
- [HPV ワクチンのリスクについて十分な情報がなく、接種する/させるかどうかが決められない]については、接種対象者本人・保護者のそれぞれ 51%が「非常にそう思う」または「そう思う」と回答した。さらに、[接種することで以前報道で見たような健康被害が起きるのではないかと心配している]については、

対象者本人の 38%、保護者の 49%が「非常にそう思う」または「そう思う」と回答した（同 P11）。

- HPV ワクチンに関する誤情報のうち、「どちらともいえない」の回答が多かった項目は次のとおり。[接種すると子宮頸がんにかかる可能性がある]（対象者本人 47%、保護者 46%）、[接種すると不妊や流産を起こす]（対象者本人 51%、保護者 50%）、[子宮頸がん検診を受けていれば接種する必要はない]（対象者本人 46%、保護者 45%）、[すでに性的接触を経験した人は接種しても意味がない]（対象者本人 45%、保護者 44%）（同 P12～13）。

○ HPV ワクチン接種に対する考え方（別添資料 P15～17）

- [あなたは/あなたの娘は HPV ワクチンを接種したことがありますか]の質問に対し、接種したことがある（「1 回接種した」「2 回接種した」「3 回接種した」「接種したことはあるが、何回接種したかはわからない（覚えていない）」）と回答したのは、全体の 24%であった（同 P15）。
- 接種した理由で回答が多かったのは、「HPV ワクチンは有効だと思っているから」（対象者本人 36%、保護者 66%）、「子宮頸がんは危険だと思ったから」（対象者本人 42%、保護者 57%）であった。これらに次いで多かったのは、対象者本人では「母親が HPV ワクチンの接種を勧めていたから」（33%）、保護者では「現在、HPV ワクチンを公費で接種できるから」（33%）であった（同 P15）。
- （[あなたは/あなたの娘は HPV ワクチンを接種したことがありますか]の質問に対し、）「3 回接種した」以外の回答をした人に、[今後、HPV ワクチンを接種したい/させたいと思いますか]と尋ねたところ、対象者本人の 45%、保護者の 38%が「わからない」と回答した。接種対象者の 28%、保護者の 32%は「強く接種したい/させたい」または「接種したい/させたい」と回答し、対象者本人の 28%、保護者の 31%は「あまり接種したくない/させたくない」または「強く接種したくない/させたくない」と回答した（同 P16）。
- 「強く接種したい/させたい」「接種したい/させたい」と回答した人のうち、その理由として回答が多かったのは「子宮頸がんは危険だと思ったから」（対象者本人 65%、保護者 60%）、「HPV ワクチンは有効だと思っているから」（対象者本人 53%、保護者 63%）であった。一方、「あまり接種したくない/させたくない」「強く接種したくない/させたくない」と回答した人のうち、その理由として回答が多かったのは「HPV ワクチンは安全ではないと思うから」（対象者本人 28%、保護者 47%）、「接種の決断を下すのに十分な情報を得られていないから」（対象者本人 24%、保護者 43%）、「友人たち/友人の娘たちも、HPV ワクチンを接種していないから」（対象者本人 16%、保護者 15%）であった（同 P17）。

調査 2 HPV ワクチンにおける情報周知の実態に関する調査（対象：市区町村）

○ 自治体での情報周知の状況（別添資料 P20～25）

- 接種対象者への個別案内については、令和 5 年 1 月末時点で 90%以上の自治体

が、年度当初計画していた送付対象者への送付を完了している。

- 厚労省が作成したリーフレットを自治体 HP または窓口で掲載または配布している自治体は、全体の半数程度であった。

○ 担当者が抱えている問題意識（別添資料 P26～27）

- 「接種に対する不安感の払拭の必要性」のほか、「効果的な周知方法に苦慮」「対象者の関心が低い」などの課題が挙げられている。

HPVワクチンに関する調査について

厚生労働省健康局予防接種担当参事官室

令和5年7月28日

HPVワクチンに関する調査 実施の背景および目的

調査実施の背景

- 令和4年度からHPVワクチン定期接種の積極的勧奨を再開し、各自治体から予診票の個別送付等が実施されている。また、積極的勧奨差し控え期間中に接種の機会を逃した方に対しては、令和6年度末まで、接種の機会を提供している（キャッチアップ接種）。
- 正しい理解のもとHPVワクチンの接種を検討・判断できるよう広報活動を展開していくにあたり、接種対象者本人やその保護者における、HPVワクチンおよび子宮頸がんに対する理解やワクチン接種に対する考え方等について、現状を把握する必要がある。
- さらに、予防接種の実施主体である自治体とも連携して情報提供するにあたり、各自治体の状況や、担当者が抱えている問題意識等について把握することが重要である。

調査実施の目的

- 現状を把握し、今後の広報活動について検討するため、以下の2調査を実施。
 - 調査1「HPVワクチンにおける理解度に関する調査」（接種対象者及び保護者向け調査）
 - 調査2「HPVワクチンにおける情報周知の実態に関する調査」（自治体向け調査）

HPVワクチンに関する調査 2 調査の概要

国民向け調査

調査1「HPVワクチンにおける理解度に関する調査」

【目的】 ・接種対象者と保護者における、HPVワクチンや子宮頸がんに対する理解、また接種に対する考え方の傾向を把握する。
・情報提供にあたり、どのような内容や方法で情報を届けるのが有効かを検討するための資料とする。

【方法】 インターネット調査

【調査対象】 調査会社に登録している一般国民のうち、以下に該当する方（2,504人）

- ・1997年度～2010年度生まれ（2022年度に小学校6年～25歳になる生まれ年度）の女性
- ・2004年度～2010年度生まれ（2022年度に小学校6年～高校3年相当になる生まれ年度）の娘がいる女性

【調査期間】 2023年1月11日～2月3日

【調査項目】 HPVワクチンおよび子宮頸がんに対する認識、接種歴および接種に対する考え方、ワクチンに対する信頼度、参考にしている情報源、など

自治体向け調査

調査2「HPVワクチンにおける情報周知の実態に関する調査」

【目的】 自治体における情報周知の実態、および自治体担当者が抱えている問題意識について把握する。

【方法】 インターネット調査

【調査対象】 全1,741市区町村（回収率100%）

【調査期間】 2023年1月17日～1月31日（2023年1月末時点の状況を回答）

【調査項目】 個別案内の送付計画および実績、リーフレットの活用状況、リーフレット以外による情報提供の取組、情報提供にあたり担当者が感じている課題、および不足情報

HPVワクチンに関する調査 調査結果の概要（1）

国民向け調査（調査1） — 1

【子宮頸がんやHPVワクチンに対する理解】（P7～14）

<子宮頸がんについて>

- [子宮頸がんという病気]については、接種対象者本人の69%、保護者の91%が「知っている」または「少し知っている」と回答した（P7）。
- [子宮頸がんは深刻な病気だと思う]については、対象者本人の76%、保護者の85%が「非常にそう思う」または「そう思う」と回答した（P9）。
- [HPVは、性交渉の経験のある女性であれば、誰でも一生に一度は感染する可能性がある]について、「非常にそう思う」または「そう思う」と回答したのは、対象者本人の37%、保護者の46%であった（P9）。

<HPVワクチンについて>

- [HPVワクチン]については、対象者本人の28%、保護者の9%が「知らない（聞いたことがない）」と回答した（P7）。また、[HPVワクチンの接種方法・必要な手続き] [政府が、HPVワクチンの接種をお勧めする取組（積極的勧奨）を再開したこと]についてはいずれも、対象者本人の53%、保護者の23%が「知らない（聞いたことがない）」と回答した（P7～8）。さらに、[政府が、1997～2005年度生まれの女性に対し、HPVワクチンを公費で接種できる機会を提供していること（キャッチアップ接種）]については、対象者本人（高校2年相当～1997年度生まれの女性）の53%、保護者（小学校6年～高校3年相当の娘の保護者）の26%が「知らない（聞いたことがない）」と回答した（P8）。
- [HPVワクチンは、子宮頸がんを予防するのに有効である]について「非常にそう思う」または「そう思う」と回答したのは、対象者本人の48%、保護者の54%であった。また、[公費で接種できるHPVワクチンで、50～70%の子宮頸がんが予防できる]について「非常にそう思う」または「そう思う」と回答したのは、対象者本人の33%、保護者の47%であった（P10）。
- [HPVワクチンは重要である]について「非常にそう思う」または「そう思う」と回答したのは、対象者本人の49%、保護者の52%であった。一方、[HPVワクチンは安全である]について「非常にそう思う」または「そう思う」と回答したのは、対象者本人の22%、保護者の23%で、対象者本人の59%、保護者の55%は「どちらともいえない」と回答した。[HPVワクチンは有効である]については、対象者本人の43%、保護者の49%が「非常にそう思う」または「そう思う」と回答したが、対象者本人の50%、保護者の45%は「どちらともいえない」と回答した（P14）。
- [HPVワクチンのリスクについて十分な情報がなく、接種する/させるかどうかが決められない]については、接種対象者本人・保護者のそれぞれ51%が「非常にそう思う」または「そう思う」と回答した。さらに、[接種することで以前報道で見たような健康被害が起きるのではないかと考えている]については、対象者本人の38%、保護者の49%が「非常にそう思う」または「そう思う」と回答した（P11）。
- HPVワクチンに関する誤情報のうち、「どちらともいえない」の回答が多かった項目は次のとおり。[接種すると子宮頸がんにかかる可能性がある]（対象者本人47%、保護者46%）、[接種すると不妊や流産を起こす]（対象者本人51%、保護者50%）、[子宮頸がん検診を受けていれば接種する必要はない]（対象者本人46%、保護者45%）、[すでに性的接触を経験した人は接種しても意味がない]（対象者本人45%、保護者44%）（P12～13）。

HPVワクチンに関する調査 調査結果の概要（2）

国民向け調査（調査1）— 2

【HPVワクチン接種に対する考え方】（P15～17）

- [あなたは/あなたの娘はHPVワクチンを接種したことがありますか]の質問に対し、接種したことがある（「1回接種した」「2回接種した」「3回接種した」「接種したことはあるが、何回接種したかはわからない（覚えていない）」）と回答したのは、全体の24%であった（P15）。
- 接種した理由で回答が多かったのは、「HPVワクチンは有効だと思っているから」（対象者本人36%、保護者66%）、「子宮頸がんは危険だと思ったから」（対象者本人42%、保護者57%）であった。これらに次いで多かったのは、対象者本人では「母親がHPVワクチンの接種を勧めていたから」（33%）、保護者では「現在、HPVワクチンを公費で接種できるから」（33%）であった（P15）。
- （[あなたは/あなたの娘はHPVワクチンを接種したことがありますか]の質問に対し、）「3回接種した」以外の回答をした人に、[今後、HPVワクチンを接種したい/させたいと思いますか]と尋ねたところ、対象者本人の45%、保護者の38%が「わからない」と回答した。接種対象者の28%、保護者の32%は「強く接種したい/させたい」または「接種したい/させたい」と回答し、対象者本人の28%、保護者の31%は「あまり接種したくない/させたくない」または「強く接種したくない/させたくない」と回答した（P16）。
- 「強く接種したい/させたい」「接種したい/させたい」と回答した人のうち、その理由として回答が多かったのは「子宮頸がんは危険だと思ったから」（対象者本人65%、保護者60%）、「HPVワクチンは有効だと思っているから」（対象者本人53%、保護者63%）であった。一方、「あまり接種したくない/させたくない」「強く接種したくない/させたくない」と回答した人のうち、その理由として回答が多かったのは「HPVワクチンは安全ではないと思うから」（対象者本人28%、保護者47%）、「接種の決断を下すのに十分な情報を得られていないから」（対象者本人24%、保護者43%）、「友人たち/友人の娘たちも、HPVワクチンを接種していないから」（対象者本人16%、保護者15%）であった（P17）。

【参考になっている情報源】（P18）

- [一般的な健康に関する情報を得る場合に使用している情報源]について回答が多かったのは、「国内のテレビ」（対象者本人58%、保護者74%）、「ニュース系ウェブサイト」（対象者本人34%、保護者55%）であった。これらに次いで多かったのは、対象者本人では「家族からの情報」（23%）、保護者では「友人・知人からの情報」（24%）であった。
- [HPVワクチンに関する情報を得る場合に使用している情報源]について回答が多かったのは、「国内のテレビ」（対象者本人34%、保護者55%）、「どこからも情報を得ていない」（対象者本人30%、保護者15%）であった。

自治体向け調査（調査2）

【自治体での情報周知の状況】（P20～25）

- 接種対象者への個別案内について、令和5年1月末時点で90%以上の自治体が、年度当初計画していた送付対象者への発送を完了していた（P20～22）。
- 厚労省が作成したリーフレットを自治体HPまたは窓口で掲載または配布している自治体は、全体の半数程度であった（P23）。

【担当者が抱えている問題意識】（P26～27）

- 「接種に対する不安感の払拭の必要性」のほか、「効果的な周知方法に苦慮」「対象者の関心が低い」などの課題が挙げられている。

調査 1

「HPVワクチンにおける理解度に関する調査」

調査結果



調査1「HPVワクチンにおける理解度に関する調査」 調査方法詳細

調査目的	<ul style="list-style-type: none"> 接種対象者と保護者における、HPVワクチンや子宮頸がんに対する理解、および接種に対する考え方の傾向を把握する。 国民への情報提供にあたり、どのような情報をどの媒体で届けるのが有効かを検討するための資料とする。
調査対象	<ul style="list-style-type: none"> 【接種対象者本人】1997年度～2010年度生まれの女性 【保護者】2004年度～2010年度生まれ（小学校6年～高校3年相当）の娘がいる女性
調査方法	インターネット調査（小学校6年～高校1年相当の女性は、本人が横にいて保護者が代理回答する方式で実施）
実査期間	2023年1月11日(水)～2023年2月3日(金)
調査設計	<ul style="list-style-type: none"> ■ 調査票：以下3つの調査票を用いて実施 ※3つの調査票で対象者により表現等を変更したが、質問項目や回答選択肢は主に同内容 <ul style="list-style-type: none"> 調査票① 対象：小学校6年～高校1年相当の娘がいる保護者（該当する娘本人が横にいて保護者が代理回答） 調査票② 対象：1997年度～2005年度生まれの女性 調査票③ 対象：小学校6年～高校3年相当の娘がいる保護者 ■ サンプル数：以下の集団での割付とし、合計2504サンプルを回収 <ul style="list-style-type: none"> 【接種対象者本人】 <ul style="list-style-type: none"> 小学校6年～高校1年相当の女性（調査票①） 500人（各学年100人） 高校2年～3年相当の女性（調査票②） 500人（各学年250人） 1997年度～2003年度生まれの女性（調査票②） 504人（各年度72人） 【保護者】 <ul style="list-style-type: none"> 小学校6年～高校1年相当の娘がいる保護者（調査票③） 500人（各学年100人） 高校2年～3年相当の娘がいる保護者（調査票③） 500人（各学年250人） ■ エリア別の構成比は令和2年国勢調査の構成比に近似させた設計とした。＜エリア別構成比・回収比＞は以下のとおり

＜エリア別構成比・回収比＞

	【接種対象者本人】 11～25歳の女性		【保護者】 30～65歳の女性	
	エリア別構成比	回収比	エリア別構成比	回収比
北海道・東北	10.0%	9.9%	11.0%	11.1%
関東	35.2%	35.4%	35.3%	35.1%
中部	16.7%	16.8%	16.4%	16.7%
近畿	18.4%	18.2%	17.7%	17.8%
中国・四国	8.2%	8.2%	8.3%	8.2%
九州・沖縄	11.4%	11.4%	11.3%	11.1%
全国	100%	100%	100%	100%

※エリア別構成比は令和2年国勢調査よりイーピーエス株式会社で作成

※エリア内訳：

【北海道・東北】北海道 青森県 岩手県 宮城県 秋田県 山形県 福島県
【関東】茨城県 栃木県 群馬県 埼玉県 千葉県 東京都 神奈川県
【中部】新潟県 富山県 石川県 福井県 山梨県 長野県 岐阜県 静岡県 愛知県
【近畿】三重県 滋賀県 京都府 大阪府 兵庫県 奈良県 和歌山県
【中国・四国】鳥取県 島根県 岡山県 広島県 山口県 徳島県 香川県 愛媛県 高知県
【九州・沖縄】福岡県 佐賀県 長崎県 熊本県 大分県 宮崎県 鹿児島県 沖縄県

調査1「HPVワクチンにおける理解度に関する調査」 調査結果①

子宮頸がんやHPVワクチンに対する理解（1） - 1

Q. あなたは以下（①～⑤）について、どの程度知っていますか。あてはまるものをそれぞれひとつお知らせください。

MTS

①「子宮頸がん」という病気について

【全体】「知っている」が最も高く50%。「知らない」が最も低く4%。
 【本人・保護者】「知っている」は本人41%に対し、保護者63%と高い。

②「HPVワクチン」について

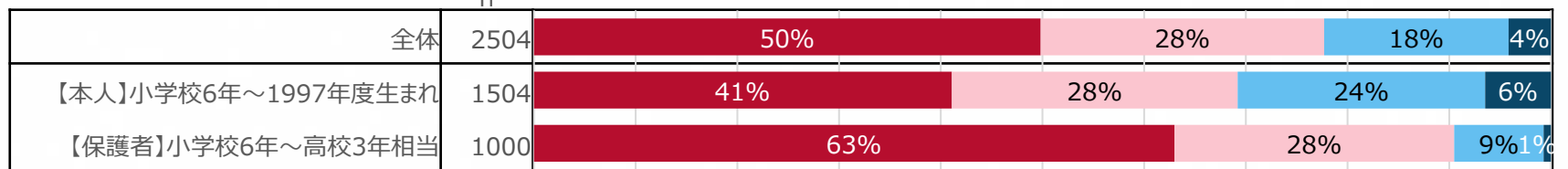
【全体】「知っている」が最も高く35%。「知らない」が最も低く20%。
 【本人・保護者】「知っている」は本人25%に対し、保護者49%と高い。「知らない」は本人28%に対し、保護者9%と低い。

③HPVワクチンの接種方法・必要な手続き

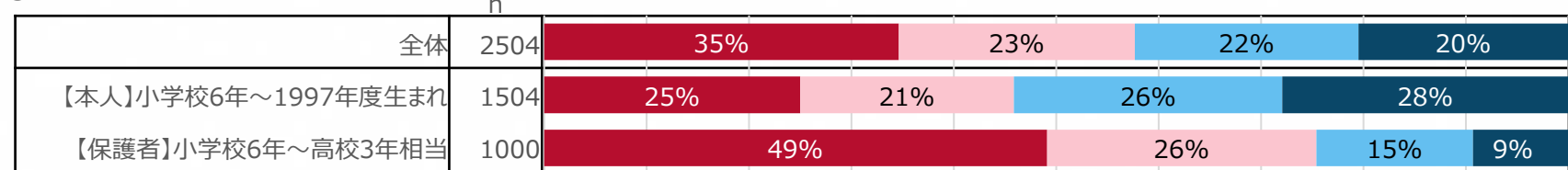
【全体】「知らない」が最も高く41%。次いで、「知っている」が23%。
 【本人・保護者】「知っている」は本人13%に対し、保護者38%と高い。「知らない」は本人53%に対し、保護者23%と低い。

※小学校6年～高校1年相当の女性は、本人が横にいて保護者が代理回答
 ※n=50未満は参考値

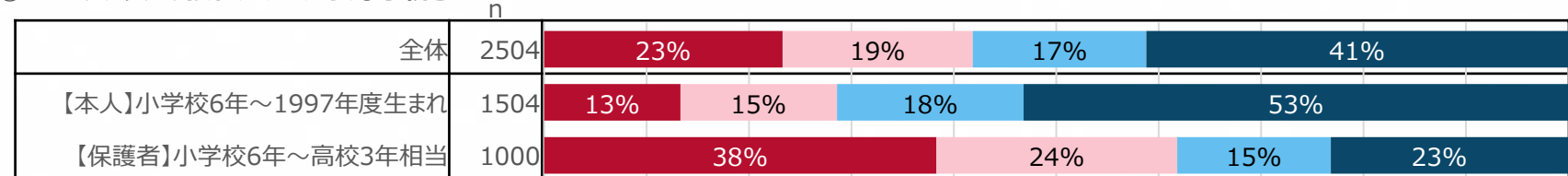
①「子宮頸がん」という病気について



②「HPVワクチン」について



③HPVワクチンの接種方法・必要な手続き



調査1「HPVワクチンにおける理解度に関する調査」 調査結果②

子宮頸がんやHPVワクチンに対する理解（1） - 2

Q. あなたは以下（①～⑤）について、どの程度知っていますか。あてはまるものをそれぞれひとつお知らせください。

MTS

④ 2022年度より政府が、HPVワクチンの接種をお勧めする取組（積極的勧奨）を再開したこと

【全体】「知らない」が最も高く41%。「知っている」は29%。

【本人・保護者】「知っている」は本人18%に対し、保護者で46%と高い。「知らない」は本人53%に対し、保護者で23%と低い。

⑤ 2022年度より政府が、1997～2005年度生まれの女性に対し、

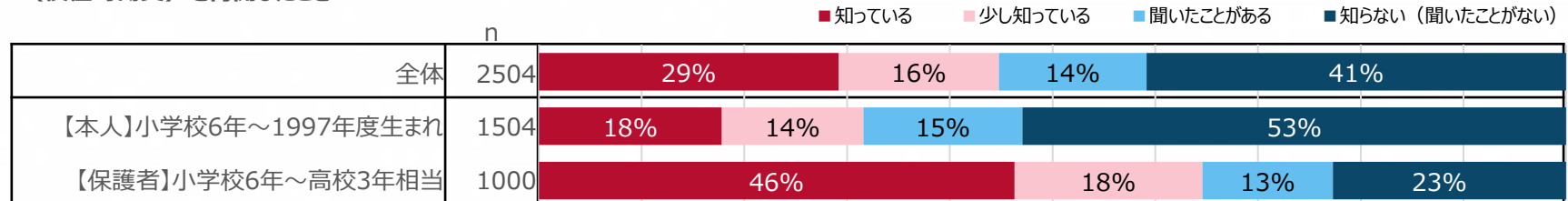
HPVワクチンを公費で接種できる機会を提供していること（キャッチアップ接種）

【全体】「知らない」が最も高く40%。次いで「知っている」32%。

【本人・保護者】「知っている」は本人19%に対し、保護者45%と高い。「知らない」は本人53%に対し、保護者26%と低い。

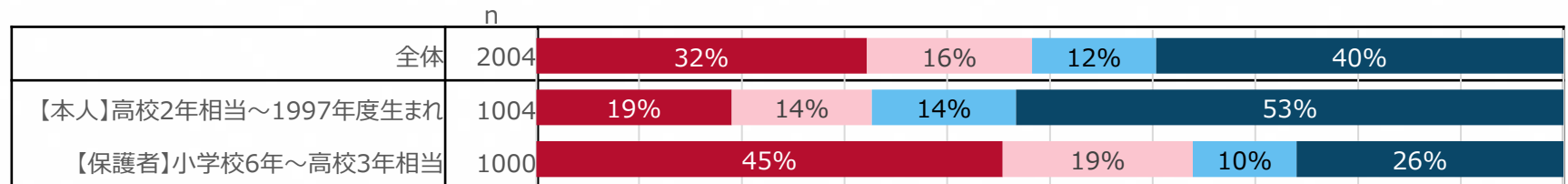
④ 2022年度より政府が、HPVワクチンの接種をお勧めする取組（積極的勧奨）を再開したこと

※小学校6年～高校1年相当の女性は、本人が横にいて保護者が代理回答
※n=50未満は参考値



⑤ 2022年度より政府が、1997～2005年度生まれの女性に対し、HPVワクチンを公費で接種できる機会を提供していること（キャッチアップ接種）

※小学校6年～高校1年相当の女性本人には未聴取



調査1「HPVワクチンにおける理解度に関する調査」 調査結果③

子宮頸がんやHPVワクチンに対する理解（2） - 1

Q. あなたは以下（①～⑧）について、どの程度同意されますか。あてはまるものをそれぞれひとつお知らせください。

MTS

①子宮頸がんは深刻な病気だと思う

【全体】「思う」計79%、「どちらともいえない」17%、「思わない」計3%。

【本人・保護者】「思う」計は本人76%に対し、保護者85%とやや高い。「わからない」は保護者13%に対し、本人20%とやや高い。

②HPVは、性交渉の経験のある女性であれば、誰でも一生に一度は感染する可能性がある

【全体】「どちらともいえない」が最も高く43%。次いで、「思う」計41%、「思わない」計17%。

【本人・保護者】「思う」計は本人37%に対し、保護者46%とやや高い。「思わない」計は本人と保護者で大きく変わらない。

③私は/娘は性的接触の経験がないので、子宮頸がんになる可能性は低いと思う

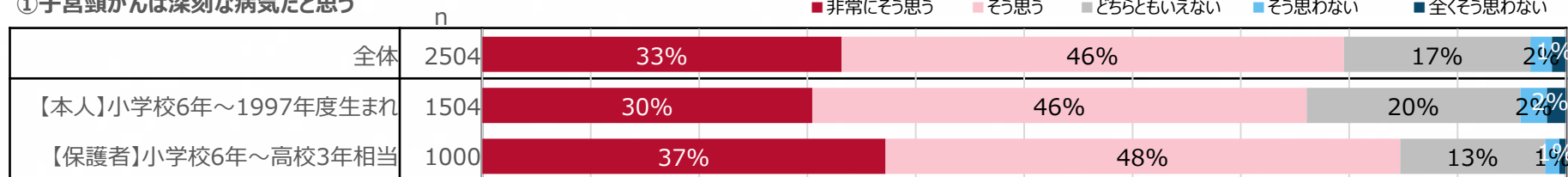
【全体】「どちらともいえない」が最も高く47%。次いで、「思わない」計35%、「思う」計18%。

【本人・保護者】「思う」計は本人20%に対し、保護者14%とやや低い。「思わない」計は本人32%に対し、保護者40%とやや高い。

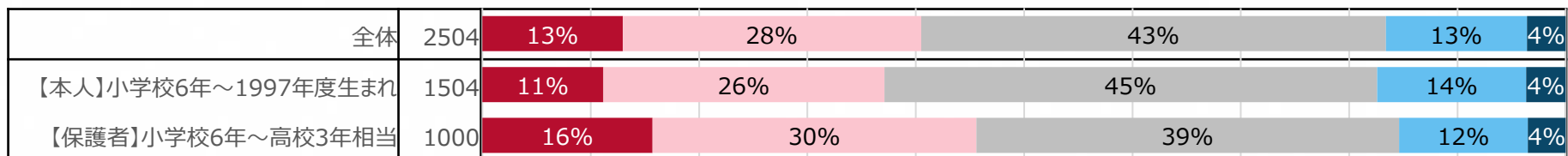
※小学校6年～高校1年相当の女性は、本人が横にいて保護者が代理回答

※n=50未満は参考値

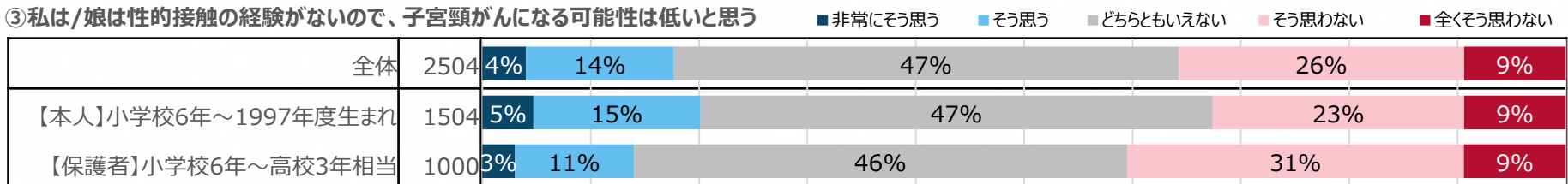
①子宮頸がんは深刻な病気だと思う



②HPVは、性交渉の経験のある女性であれば、誰でも一生に一度は感染する可能性がある



③私は/娘は性的接触の経験がないので、子宮頸がんになる可能性は低いと思う



調査1「HPVワクチンにおける理解度に関する調査」 調査結果④

子宮頸がんやHPVワクチンに対する理解（2） - 2

Q. あなたは以下（①～⑧）について、どの程度同意されますか。あてはまるものをそれぞれひとつお知らせください。

MTS

④ HPVワクチンは、子宮頸がんを予防するのに有効である

【全体】「思う」計50%、「どちらともいえない」44%、「思わない」計6%。

【本人・保護者】「思う」計は本人48%に対し、保護者54%とやや高い。「思わない」計は本人と保護者で大きく変わらない。

⑤ 公費で接種できるHPVワクチンで、50-70%の子宮頸がんが予防できる

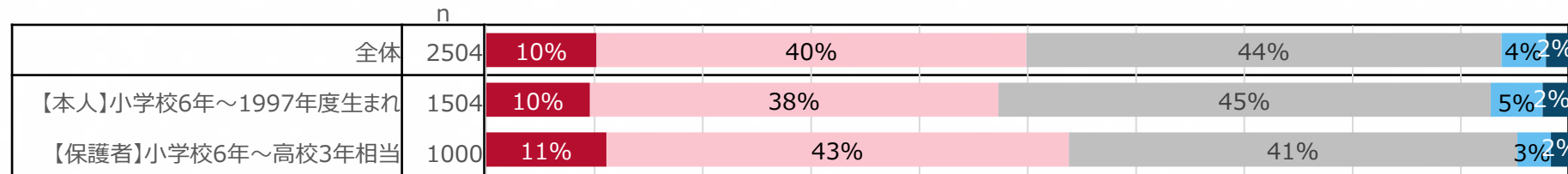
【全体】「どちらともいえない」が最も高く54%。次いで、「思う」計39%、「思わない」計6%。

【本人・保護者】「思う」計は本人33%に対し、保護者47%と高い。「思わない」計は本人と保護者で大きく変わらない。

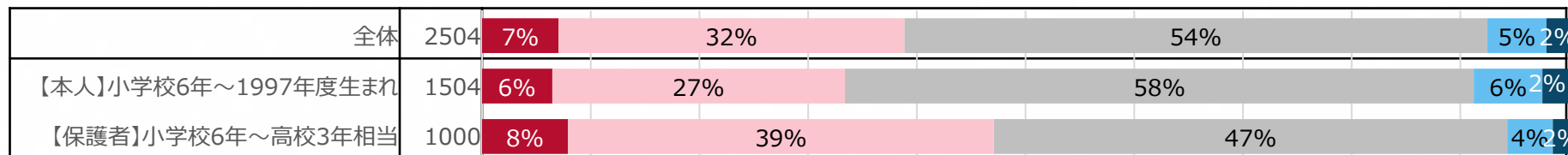
※小学校6年～高校1年相当の女性は、本人が横にいて保護者が代理回答
※n=50未満は参考値

④ HPVワクチンは、子宮頸がんを予防するのに有効である

■ 非常にそう思う ■ そう思う ■ どちらともいえない ■ そう思わない ■ 全くそう思わない



⑤ 公費で接種できるHPVワクチンで、50-70%の子宮頸がんが予防できる



調査1「HPVワクチンにおける理解度に関する調査」 調査結果⑤

子宮頸がんやHPVワクチンに対する理解（2） - 3

MTS

Q. あなたは以下（①～⑧）について、どの程度同意されますか。あてはまるものをそれぞれひとつお知らせください。

⑥ HPVワクチンを接種する/させる時間がない

【全体】「どちらともいえない」が最も高く38%。次いで、「思わない」計37%、「思う」計25%。
 【本人・保護者】「思う」計は本人29%に対し、保護者19%とやや低い。「思わない」計は本人31%に対し保護者45%とやや高い。

⑦ HPVワクチンのリスクについて十分な情報がなく、接種する/させるかどうか決められない

【全体】「思う」計が最も高く51%、「どちらともいえない」33%、「思わない」計16%。
 【本人・保護者】「思う」計は本人と保護者で大きく変わらない。「思わない」計は本人14%に対し、保護者19%とやや高い。

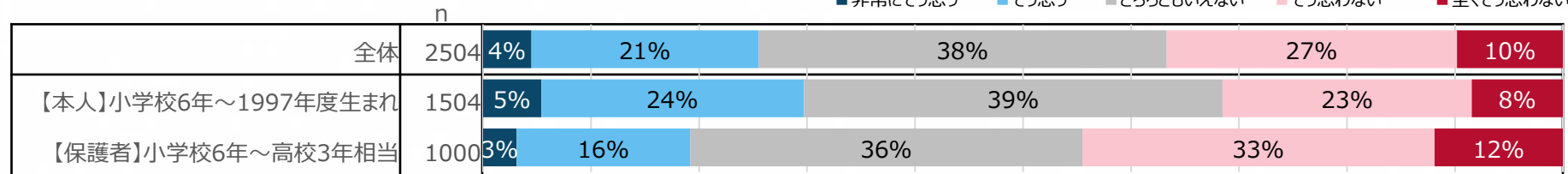
⑧ HPVワクチンを接種すると、以前報道で見たような健康被害が起きるのではないかと考えている

【全体】「どちらともいえない」が最も高く46%。次いで、「思う」計43%、「思わない」計11%。
 【本人・保護者】「思う」計は本人38%に対し、保護者49%と高い。「思わない」計は本人と保護者で大きく変わらない。

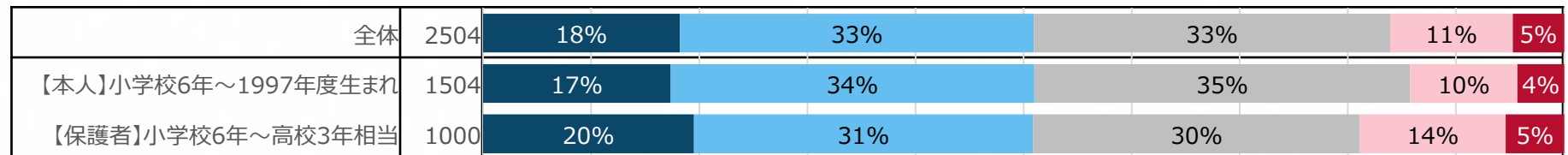
⑥ HPVワクチンを接種する/させる時間がない

※小学校6年～高校1年相当の女性は、本人が横にいて保護者が代理回答
 ※n=50未満は参考値

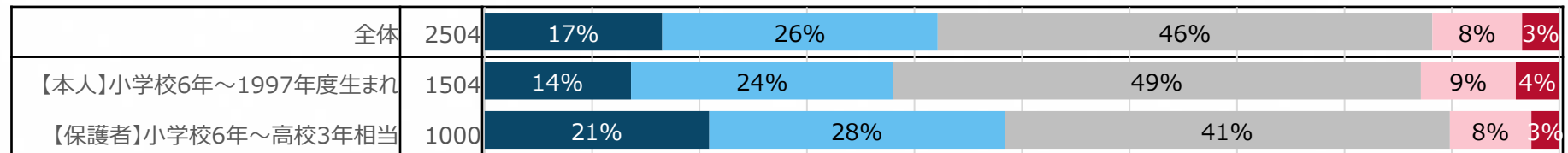
■ 非常にそう思う ■ そう思う ■ どちらともいえない ■ そう思わない ■ 全くそう思わない



⑦ HPVワクチンのリスクについて十分な情報がなく、接種する/させるかどうか決められない



⑧ HPVワクチンを接種すると、以前報道で見たような健康被害が起きるのではないかと考えている



調査1「HPVワクチンにおける理解度に関する調査」 調査結果⑥

子宮頸がんやHPVワクチンに対する理解（3） - 1 ※HPVワクチンに関する誤情報

Q. あなたは以下（①～⑥）について、どの程度同意されますか。あてはまるものをそれぞれひとつお知らせください。

MTS

①HPVワクチンを接種すると、子宮頸がんにかかる可能性がある

【全体】「どちらともいえない」が最も高く47%。次いで、「思わない」計45%、「思う」計8%。

【本人・保護者】「思わない」計は、本人43%に対し、保護者49%とやや高い。

②子宮頸がんは、性に奔放な人だけがかかる病気だ

【全体】「思わない」計65%、「どちらともいえない」30%、「思う」計5%。

【本人・保護者】「思わない」計は、本人60%に対し、保護者71%と高い。「思う」計は、本人と保護者で大きく変わらない。

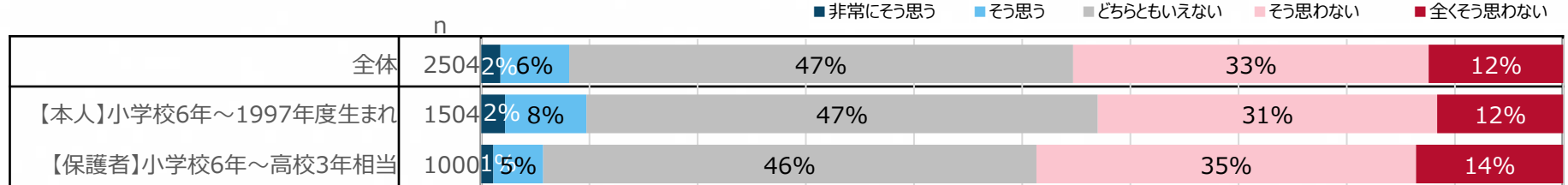
③HPVワクチンを接種すると不妊や流産を起こす

【全体】「どちらともいえない」が最も高く51%。次いで、「思わない」計42%、「思う」計7%。

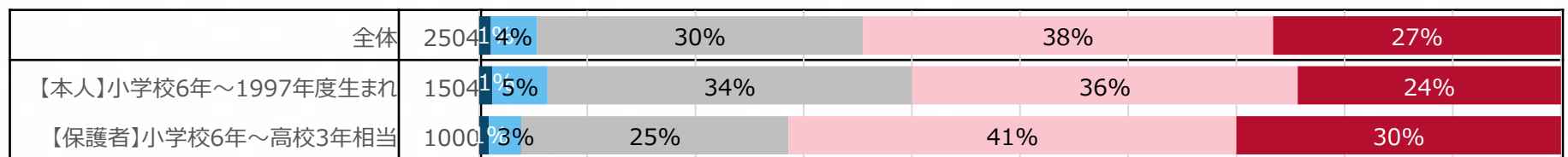
【本人・保護者】「思わない」計は、本人40%に対し、保護者46%とやや高い。

※小学校6年～高校1年相当の女性は、本人が横にいて保護者が代理回答
※n=50未満は参考値

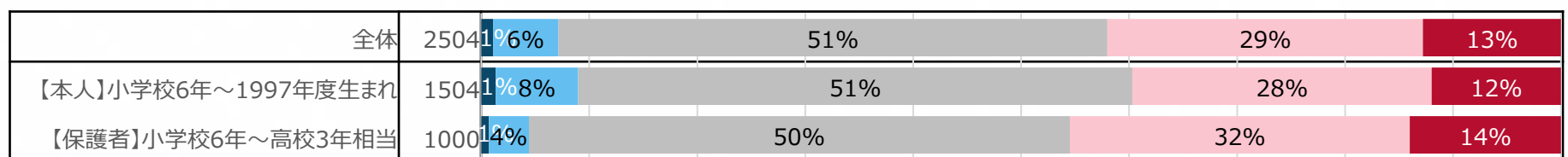
①HPVワクチンを接種すると、子宮頸がんにかかる可能性がある



②子宮頸がんは、性に奔放な人だけがかかる病気だ



③HPVワクチンを接種すると不妊や流産を起こす



調査1「HPVワクチンにおける理解度に関する調査」 調査結果⑦

子宮頸がんやHPVワクチンに対する理解（3） - 2 ※HPVワクチンに関する誤情報

Q. あなたは以下（①～⑥）について、どの程度同意されますか。あてはまるものをそれぞれひとつお知らせください。

MTS

④ HPVワクチンの推進は、10代での性交渉を増加させる

【全体】「思わない」計57%、「どちらともいえない」37%、「思う」計5%。

【本人・保護者】「思わない」計は本人53%に対し、保護者64%と高い。「思う」計は本人と保護者で大きく変わらない。

⑤ 子宮頸がん検診を受けていれば、HPVワクチンを接種する必要はない

【全体】「思わない」計46%、「どちらともいえない」46%、「思う」計8%。

【本人・保護者】「思わない」計、「どちらともいえない」、「思う」計、いずれも本人と保護者で大きく変わらない。

⑥ すでに性的接触の経験した人は、HPVワクチンを接種しても意味がない

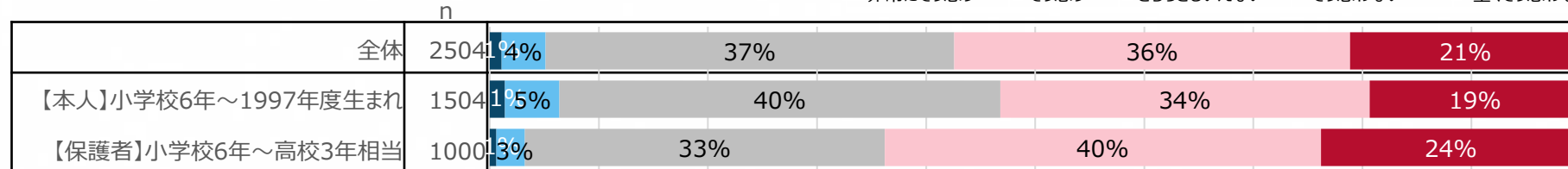
【全体】「思わない」計45%、「どちらともいえない」45%、「思う」計10%。

【本人・保護者】「思わない」計、「どちらともいえない」、「思う」計、いずれも本人と保護者で大きく変わらない。

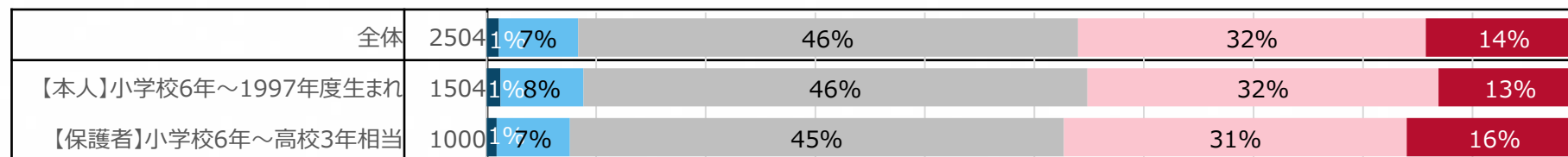
④ HPVワクチンの推進は、10代での性交渉を増加させる

※小学校6年～高校1年相当の女性は、本人が横にいて保護者が代理回答
※n=50未満は参考値

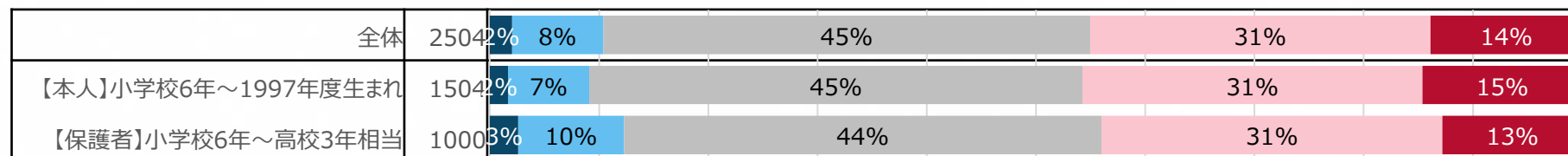
■非常にそう思う ■そう思う ■どちらともいえない ■そう思わない ■全くそう思わない



⑤ 子宮頸がん検診を受けていれば、HPVワクチンを接種する必要はない



⑥ すでに性的接触を経験した人は、HPVワクチンを接種しても意味がない



調査1「HPVワクチンにおける理解度に関する調査」 調査結果⑧

子宮頸がんやHPVワクチンに対する理解（4）

MTS

Q. あなたは以下のHPVワクチンに対する考え（①～③）について、どう思いますか。あてはまるものをそれぞれひとつお知らせください。

①HPVワクチンは重要である

【全体】「思う」計が最も高く50%、次いで、「どちらともいえない」43%、「思わない」計7%。
 【本人・保護者】「思う」計、「どちらともいえない」、「思わない」計、いずれも本人と保護者で大きく変わらない。

②HPVワクチンは安全である

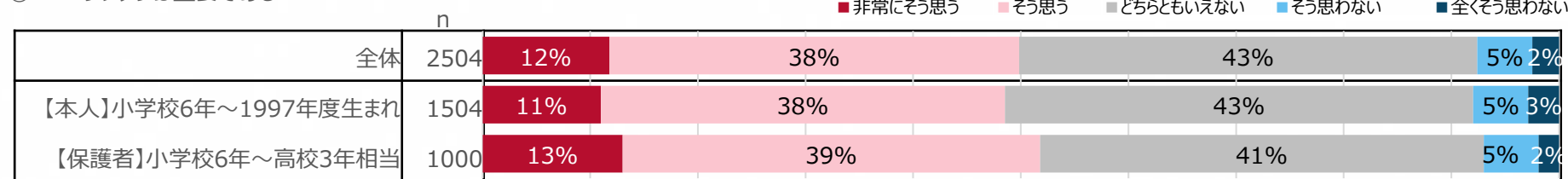
【全体】「どちらともいえない」が最も高く57%。次いで、「思う」計22%、「思わない」計20%。
 【本人・保護者】「どちらともいえない」、「思う」計、「思わない」計いずれも本人と保護者で大きく変わらない。

③HPVワクチンは有効である

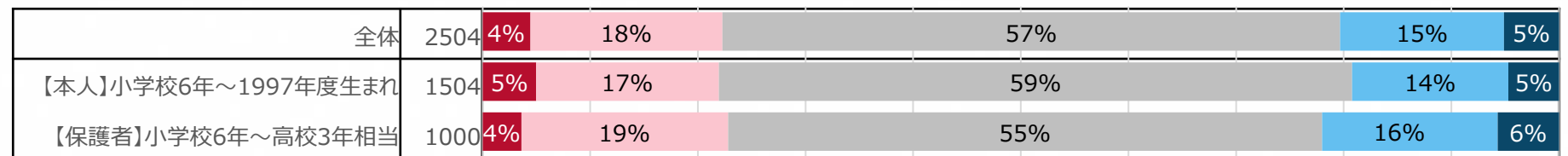
【全体】「どちらともいえない」が最も高く48%。次いで、「思う」計45%、「思わない」計7%。
 【本人・保護者】「思う」計は本人43%に対し、保護者49%とやや高い。「思わない」計は本人と保護者で大きく変わらない。

①HPVワクチンは重要である

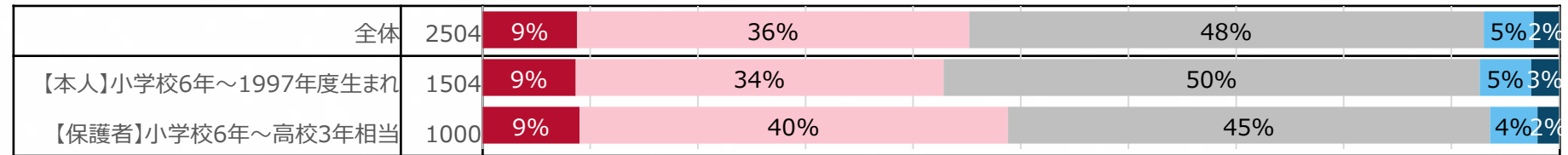
※小学校6年～高校1年相当の女性は、本人が横にいて保護者が代理回答
 ※n=50未満は参考値



②HPVワクチンは安全である



③HPVワクチンは有効である



調査1「HPVワクチンにおける理解度に関する調査」 調査結果⑨

HPVワクチン接種に対する考え方（1）

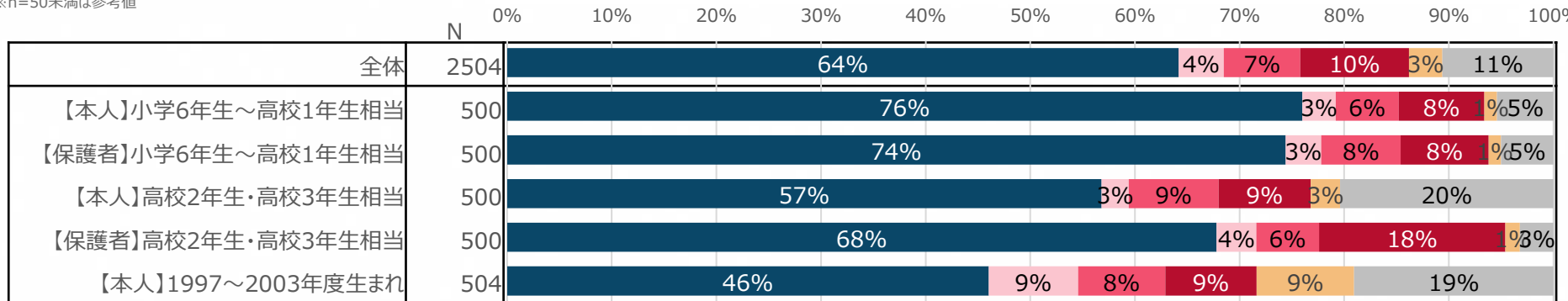
Q. あなた/あなたの娘はHPVワクチン（子宮頸がんワクチン）を接種したことがありますか。

SA

【全体】 HPVワクチンの接種なし64%、接種あり24%、「わからない」11%。
 【5つの割付集団】 高校2年生・高校3年生相当の人と1997～2003年度生まれの人では「わからない」が約20%と高い。「3回接種した」が最も高いのは高校2年生・高校3年生相当の保護者で18%。接種ありが最も多いのは1997～2003年度生まれの人で35%。

■一度も接種したことがない ■1回接種した ■2回接種した ■3回接種した ■接種したことはあるが、何回接種したかはわからない（覚えていない） ■わからない（覚えていない）

※小学校6年～高校1年相当の女性は、本人が横にいて保護者が代理回答
 ※n=50未満は参考値



Q.（前問で「1回接種した」「2回接種した」「3回接種した」「接種したことはあるが、何回接種したかはわからない（覚えていない）」と回答した人のみ）
 あなたが/あなたの娘にHPVワクチンを接種した/させた理由として、以下よりあてはまるものをすべてお知らせください。

MA

【全体】 「HPVワクチンの効果」「子宮頸がんの危険性」が最も高く48%。次いで「母親（私）の勧め」が26%。
 【本人・保護者】 「HPVワクチンの効果」は本人で36%に対し、保護者で66%と高い。「子宮頸がんの危険性」は本人は42%に対し、保護者で57%と高い。「公費で接種できる」は本人は15%に対し、保護者で33%と高い。「母親（私）の勧め」は保護者15%に対し、本人で33%と高い。

※上位5の回答を記載

※小学校6年～高校1年相当の女性は、本人が横にいて保護者が代理回答
 ※n=50未満は参考値

■1番目に高い ■2番目に高い ■3番目に高い

	n	HPVワクチンは有効だと思っているから	子宮頸がんは危険だと思ったから	母親が（私が）HPVワクチンの接種を勧めていたから	HPVワクチンの接種の案内が送られてきたから	現在、HPVワクチンを公費（無料）で接種できるから
全体	631	48%	48%	26%	23%	23%
【本人】小学6年生～1997年度生まれ	383	36%	42%	33%	18%	15%
【保護者】小学6年生～高校3年生相当	248	66%	57%	15%	31%	33%

調査1「HPVワクチンにおける理解度に関する調査」 調査結果⑩

HPVワクチン接種に対する考え方（2）

SA

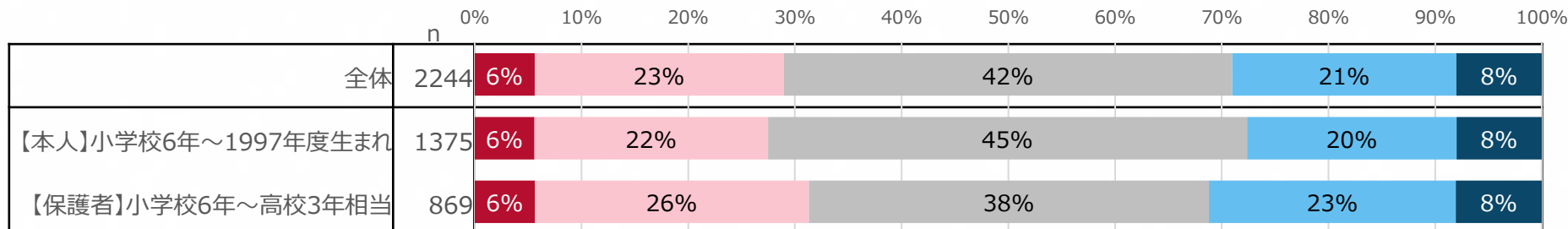
Q.（HPVワクチンを「3回接種した」以外の回答をした人のみ）
 今後、あなたは/娘にHPVワクチンを接種したい/させたいと思いますか。

【全体】「わからない」が最も多く42%。接種意志あり・なし、ともに29%。
 【本人・保護者】本人と保護者で接種意志あり・なしの割合は約30%で大きく変わらない。ただし、「わからない」の割合が保護者38%に対し、本人で45%とやや高い。

※小学校6年～高校1年相当の女性は、本人が横にいて保護者が代理回答

※n=50未満は参考値

■ 強く接種させたい ■ 接種させたい ■ わからない ■ あまり接種させたくない ■ 強く接種させたくない



調査1「HPVワクチンにおける理解度に関する調査」 調査結果⑪

HPVワクチン接種に対する考え方（3）

Q.（前問で「HPVワクチンを接種したい/させたい」と回答した人のみ）

MA

あなたが/娘にHPVワクチンを接種したい/させたい理由は何ですか。以下より、あてはまるものをすべてお知らせください。

【全体】「子宮頸がんの危険性」が最も高く63%。次いで「HPVワクチンの有効性」58%、「公費で接種できる」22%。

【本人・保護者】本人では「子宮頸がんの危険性」が最も高く65%。次いで「HPVワクチンの有効性」53%。保護者では「子宮頸がんの危険性」60%と同じくらい「HPVワクチンの有効性」63%も高い。「公費で接種できる」は本人17%に対し、保護者で29%と高い。

※上位5の回答を記載

※小学校6年～高校1年相当の女性は、本人が横にいて保護者が代理回答
※n=50未満は参考値

■ 1番目に高い ■ 2番目に高い ■ 3番目に高い

		n	子宮頸がんは危険 だと思ったから	HPVワクチンは有効 だと思っているから	現在、HPVワクチンを 公費（無料）で接 種できるから	HPVワクチンは安全 だと思っているから	将来HPVに感染する 可能性があると思 ったから
全体	650	63%	58%	22%	18%	17%	
【本人】小学6年生～1997年度生まれ	378	65%	53%	17%	21%	14%	
【保護者】小学6年生～高校3年生相当	272	60%	63%	29%	14%	20%	

Q.（前問で「HPVワクチンを接種したくない/させたくない」と回答した人のみ）

MA

あなたが/娘にHPVワクチンを接種したくない/させたくない理由は何ですか。以下より、あてはまるものをすべてお知らせください。

【全体】「HPVワクチンは安全でないと思う」が最も高く35%。次いで「十分な情報が得られていない」31%、「友人・友人の娘も未接種」16%。

【本人・保護者】「HPVワクチンは安全でないと思う」は本人28%に対し、保護者で47%と高い。「十分な情報がないと思う」は本人24%に対し、保護者で43%と高い。「接種費用がかかると思う」は保護者2%に対し、本人で14%と高い。

※上位5の回答を記載

※小学校6年～高校1年相当の女性は、本人が横にいて保護者が代理回答
※n=50未満は参考値

■ 1番目に高い ■ 2番目に高い ■ 3番目に高い

		n	HPVワクチンは安全 ではないと思うから	接種の決断を下すの に十分な情報を得ら れていないから	友人たち/友人の娘 たちも、HPVワクチン を接種していないから	接種しにくい時間が ないから	HPVワクチンの接種 にはお金がかかると思 うから
全体	1594	35%	31%	16%	10%	10%	
【本人】小学6年生～1997年度生まれ	997	28%	24%	16%	13%	14%	
【保護者】小学6年生～高校3年生相当	597	47%	43%	15%	6%	2%	

調査1「HPVワクチンにおける理解度に関する調査」 調査結果⑫

参考にしている情報源

MTM

Q.

- ①あなたが、一般的な健康に関する情報を得る場合に使用している情報源について、以下よりあてはまるものすべてお知らせください。
 ②あなたが、HPVワクチンに関する情報を得る場合に使用している情報源について、以下よりあてはまるものすべてお知らせください。

【全体】

- ①一般的な健康に関する情報：「国内のテレビ」が最も多く65%。次いで「ニュース系ウェブサイト」38%、「友人・知人からの情報」19%。
 ②HPVワクチンに関する情報：「国内のテレビ」が最も高く42%、次いで「情報を得ていない」24%、「ニュース系ウェブサイト」18%。

【本人・保護者】

- ①一般的な健康に関する情報：「国内のテレビ」が最も高く、次いで「ニュース系ウェブサイト」だが、いずれも保護者がより高い。3番目は保護者で「友人・知人からの情報」24%、本人で「家族からの情報」23%。
 ②HPVワクチンに関する情報：「国内のテレビ」は本人34%に対し、保護者で55%と高い。「情報を得ていない」は保護者15%に対し、本人で30%と高い。3番目は保護者で「ニュース系ウェブサイト」26%、本人「家族からの情報」17%。

①一般的な健康に関する情報

※上位10の回答を記載

※小学校6年～高校1年相当の女性は、本人が横にいて保護者が代理回答
 ※n=50未満は参考値

■ 1番目に高い ■ 2番目に高い ■ 3番目に高い

	n	国内のテレビ・健康関連番組	ニュース系ウェブサイト	友人・知人からの情報	家族からの情報	学校での授業	Google、Yahooなどの検索エンジン	医師からの情報	Twitter	新聞	Instagram
全体	2504	65%	38%	19%	18%	14%	14%	14%	14%	13%	13%
【本人】小学6年生～1997年度生まれ	1504	58%	32%	15%	23%	20%	14%	11%	19%	9%	15%
【保護者】小学6年生～高校3年生相当	1000	74%	46%	24%	10%	6%	15%	19%	6%	20%	10%

②HPVワクチンに関する情報

※上位10の回答を記載

※小学校6年～高校1年相当の女性は、本人が横にいて保護者が代理回答
 ※n=50未満は参考値

■ 1番目に高い ■ 2番目に高い ■ 3番目に高い

	n	国内のテレビ・健康関連番組	どこからも情報を得ていない	ニュース系ウェブサイト	家族からの情報	友人・知人からの情報	医師からの情報	新聞	Google、Yahooなどの検索エンジン	学校での授業	厚生労働省作成のリーフレット
全体	2504	42%	24%	18%	13%	12%	9%	8%	6%	6%	6%
【本人】小学6年生～1997年度生まれ	1504	34%	30%	12%	17%	9%	6%	4%	5%	9%	3%
【保護者】小学6年生～高校3年生相当	1000	55%	15%	26%	5%	17%	15%	13%	8%	3%	9%

調査 2

「HPVワクチンにおける情報周知の実態に関する調査」

調査結果

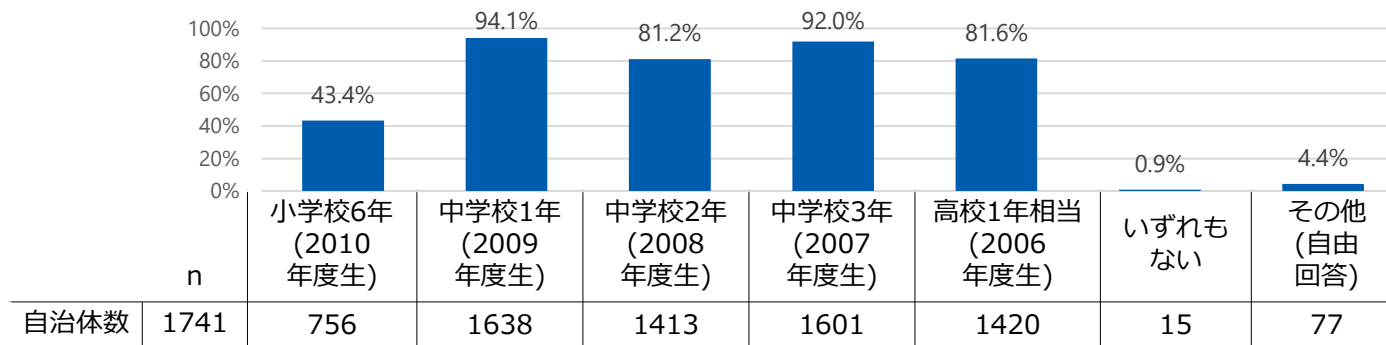


調査2「HPVワクチンにおける情報周知の実態に関する調査」調査結果①

令和4年4月時点で接種券/個別案内の送付を計画していた対象学年

【定期接種】中学校1年生、3年生へは90%以上の自治体が送付を計画。小学校6年生への送付を計画していた自治体は半数未満であった。
 【キャッチアップ接種】すべての対象学年に対し、95%以上の自治体が送付を計画していた。

■ 定期接種



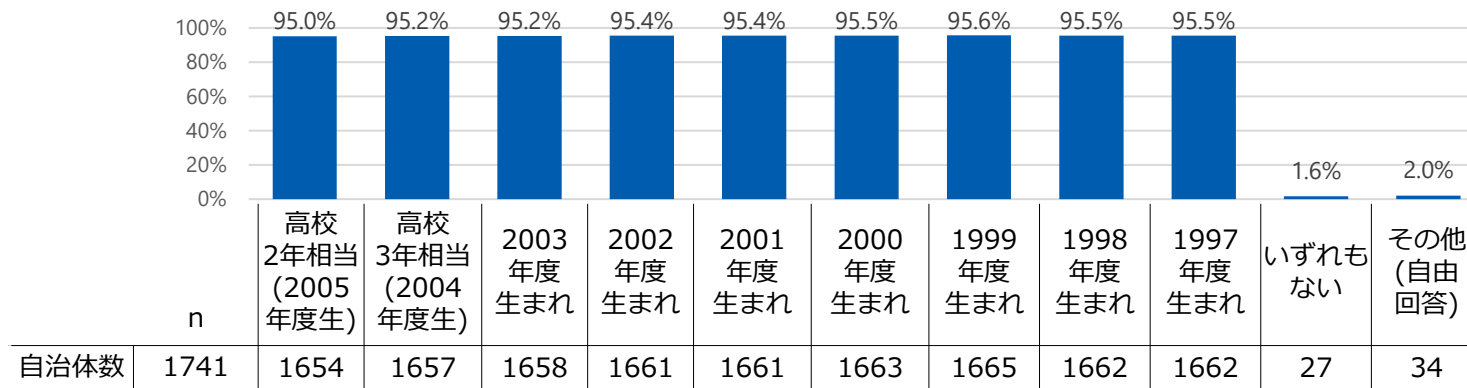
＜その他(自由記載より抜粋)＞

- ・定期接種の対象年齢未満の女子への送付(小学校3年生、5年生)
- ・令和3年度のうちに送付済み(令和4年3月に送付済み など)
- ・年度途中で送付対象学年を追加した
- ・対象者のうち3回接種未完了の方のみに送付
- ・小学校6年生のみ学校を通して通知 など

(※) 送付対象学年の組み合わせで多かったのは右記のとおり(単位:自治体数)

1. 小学校6年～高校1年相当(5学年すべて)	692
2. 中学校1年～高校1年相当(4学年)	682
3. 中学校1年・高校1年相当(2学年)	178
4. 中学校1年(1学年のみ)	44
5. 小学校6年(1学年のみ)	22

■ キャッチアップ接種



＜その他(自由記載より抜粋)＞

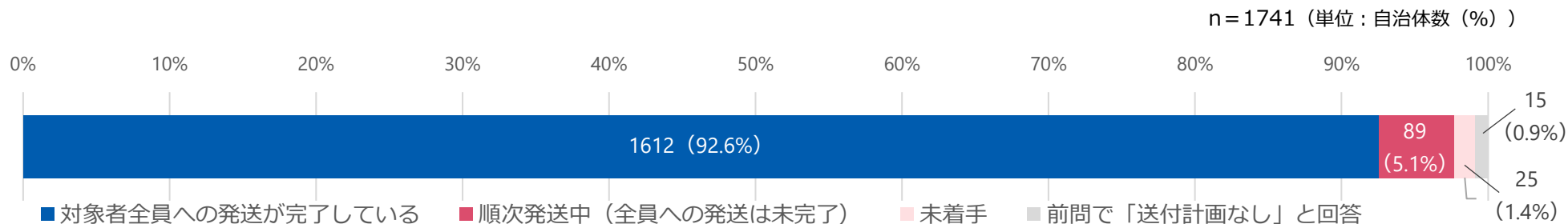
- ・前年度のうちに送付済み(令和4年3月に送付済みなど)
- ・年度途中で送付対象学年を追加した
- ・対象者のうち3回接種未完了の方のみに送付
- ・希望者に送付 など

調査2「HPVワクチンにおける情報周知の実態に関する調査」調査結果②

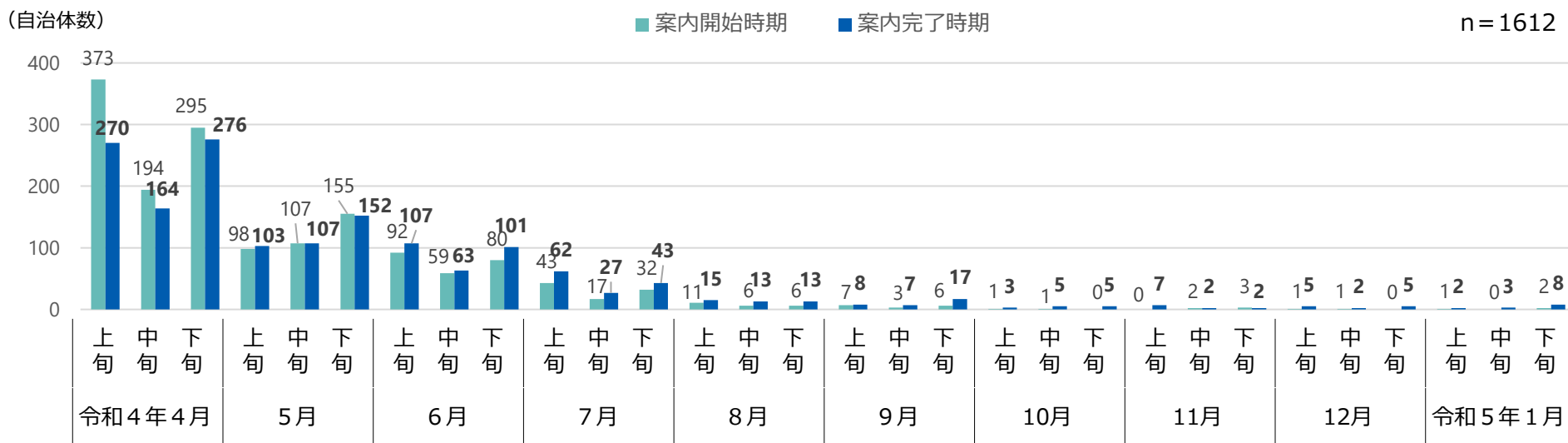
【定期接種】接種券/個別案内の発送状況（令和5年1月末時点）

令和5年1月末時点で90%以上の自治体が発送を完了していた。発送開始は令和4年4月上旬が最も多く、完了は同月下旬が最も多かった。

■ 接種券または個別案内の発送状況（送付計画に対する令和5年1月末時点の実績）



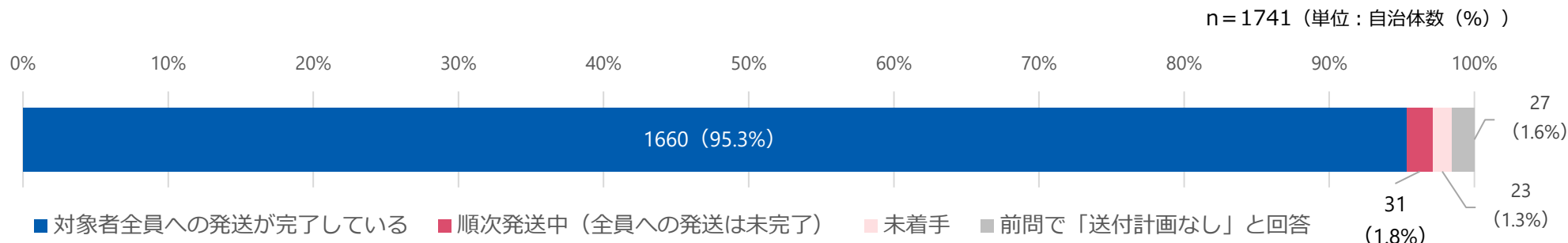
■ 発送開始時期および完了時期（「対象者全員への発送が完了している」と回答した自治体）



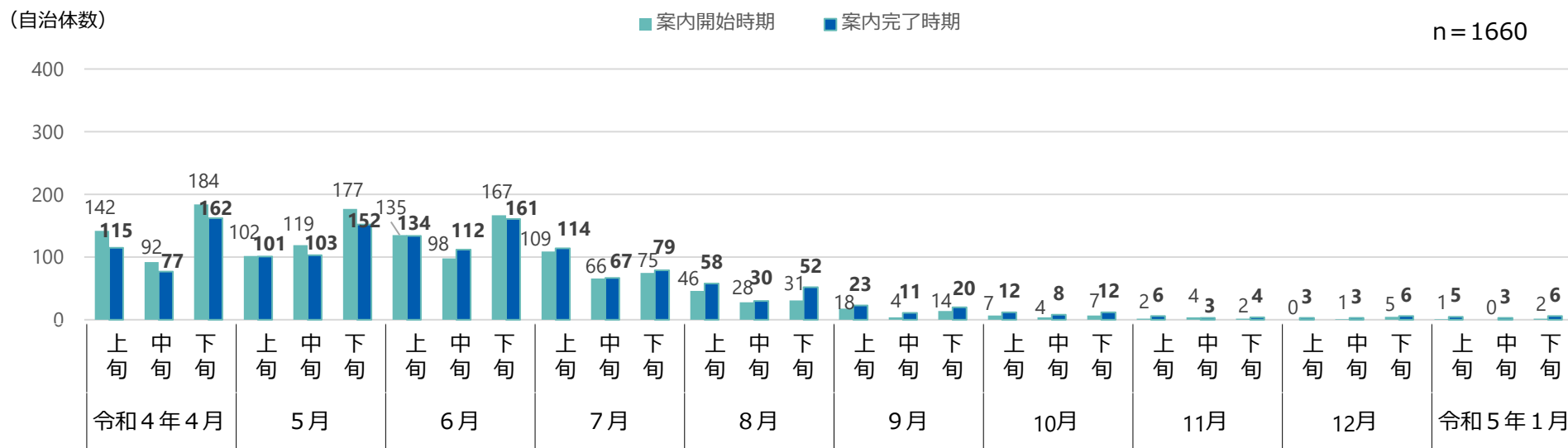
調査2「HPVワクチンにおける情報周知の実態に関する調査」調査結果③ 【キャッチアップ】接種券/個別案内の発送状況（令和5年1月末時点）

令和5年1月末時点で95%以上の自治体が発送を完了していた。発送開始・完了ともに令和4年4月下旬が最も多かった。

■ 接種券または個別案内の発送状況（送付計画に対する令和5年1月末時点の実績）



■ 発送開始時期および完了時期（「対象者全員への発送が完了している」と回答した自治体）

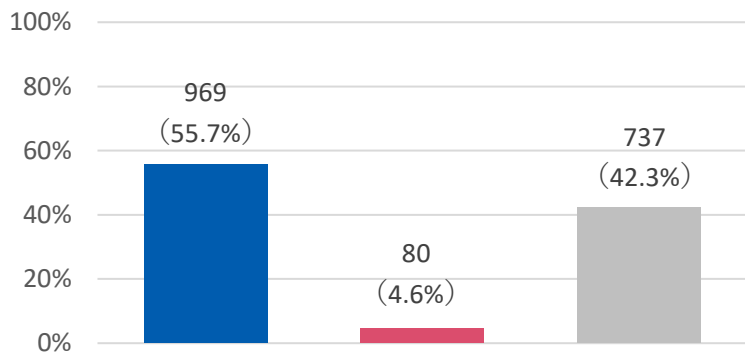


調査2「HPVワクチンにおける情報周知の実態に関する調査」調査結果④

自治体のHP／窓口におけるリーフレット掲載／配布状況

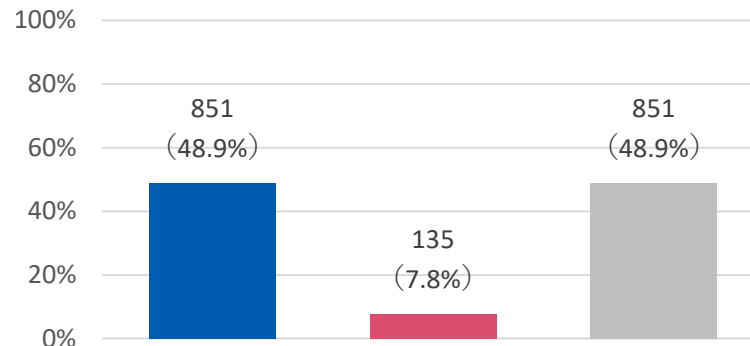
厚生労働省が作成したリーフレットを、自治体HPまたは窓口で掲載または配布している市区町村は全体の半数程度。

■ 自治体HPでのリーフレット掲載状況



■ 自治体窓口でのリーフレット配布状況

n = 1741
(単位：自治体数 (%))



- 厚生労働省が作成したリーフレットを掲載、または設置/配布している
- 自治体で独自に作成したリーフレット、または事業者が作成したリーフレットを掲載、または設置/配布している
- いずれも掲載/設置/配布していない

■ 厚生労働省作成リーフレットの掲載および配布状況

n = 1741
(単位：自治体数 (%))



概要版



詳細版



キャッチアップ版



接種後注意



医療従事者版



医療従事者版の参考資料

いずれも掲載/配布なし

	概要版	詳細版	キャッチアップ版	接種後注意	医療従事者版	医療従事者版の参考資料	いずれも掲載/配布なし
自治体HPでの掲載状況	857 (49.2%)	824 (47.3%)	780 (44.8%)	496 (28.5%)	183 (10.5%)	84 (4.8%)	762 (43.8%)
自治体窓口での配布状況	633 (36.4%)	517 (29.7%)	727 (41.8%)	303 (17.4%)	72 (4.1%)	11 (0.6%)	890 (51.1%)

調査2「HPVワクチンにおける情報周知の実態に関する調査」調査結果⑤ 厚労省作成リーフレットの活用例（自由記載より抜粋）

○接種対象者やその保護者への情報提供

n = 821（記入のあった自治体数）

- ・ 個別通知に同封して送付、または案内文に厚労省リーフレットのQRコードを掲載
- ・ 対象者や保護者向けにHPVワクチンについての講演会を実施し、持ち帰っていただけるよう会場にリーフレットを設置した
- ・ 中学1年生を対象に、保健師が学校でHPVワクチンの健康教育を実施している。そのときにリーフレットも配布している
- ・ 学校PTA主催の性に関する講座でリーフレットを配布した
- ・ 市内の高校等を対象に、キャッチアップ接種のリーフレットを送付し、施設内への設置を依頼した
- ・ 20歳のつどい（旧成人式）で、子宮頸がん検診の案内をあわせてキャッチアップ接種のリーフレットを配布した
- ・ 大学生に向けた子宮頸がんの予防・早期発見に関する周知啓発として、市内の大学2か所にブースを設置。がん検診の案内等とともにリーフレットを直接配布した

○医療機関・医療従事者への情報提供

- ・ 予防接種実施医療機関への情報提供として配布
- ・ 接種に来られた方への説明に利用いただくために配布
- ・ 医療機関向けの予防接種説明会の資料として、市内医療機関向けに配布

○教育機関・学校関係者への情報提供

- ・ 教育委員会主催の学校関係者の会合を利用し、説明、資料配布を実施
- ・ 市の学校保健会定期総会で周知し、会員に配布した
- ・ 養護教諭を対象に説明会を実施し、リーフレットも配布した

○その他

- ・ 広報誌/紙、自治体ホームページ、または公式SNS（Twitter、Facebook、LINE等）で厚労省リーフレットに誘導
- ・ 市民から相談を受けたときの説明資料として活用
- ・ 新型コロナワクチンの集団接種会場で配布

調査2「HPVワクチンにおける情報周知の実態に関する調査」調査結果⑥

HPVワクチンに関する情報提供の取組（自由記載から抜粋）

■ 代表的な回答

n=279（記入のあった自治体数）

- ・ 広報紙/誌、公式SNS、情報アプリ、メール配信サービスなど、自治体がもつ媒体での発信
- ・ 子宮頸がん予防啓発ポスターの掲示（掲出先：市役所、医療機関、学校、地下鉄駅構内など）
- ・ 授業、出張講座、入学説明会など教育機関での情報提供（対象者：接種対象者本人、保護者、養護教諭）
- ・ 医療機関または医療従事者への情報提供、研修
- ・ 情報誌、ケーブルテレビ、ラジオなど地域のメディアを通じた情報発信

○ 接種対象者やその保護者への情報提供

- ・ 自治体で行う婦人科がん検診時にHPVワクチンに関する情報提供を行っている。
- ・ 小学校5～6年生、中学校1～3年生を対象に、夏・冬・春休みに学校を通して全員へ配布する思春期の相談が匿名でできる保健事業のチラシに、接種対象者であることのメッセージと市ホームページQRコードを添付したお知らせを掲載している。
- ・ 独自で作成したチラシを、地域職域連携協議会や市内の大学等への周知に使用した。
- ・ 市内の小学6年生を対象に、他の予防接種（二種混合・日本脳炎）の接種勧奨と合わせ、学校を通じてチラシを配布した。
- ・ HPVワクチンに関する情報を掲載したステッカーを使い捨てカイロの包装に貼付し、「20歳のつどい」の会場に設置した。

○ 教育機関・学校関係者への情報提供

- ・ 市内小中学校の養護教諭や校長・教頭へ、子宮頸がん予防接種（の積極的勧奨）が再開されたことを周知するとともに、学校の「がん教育」の中で取り入れるものとして、子どもに分かりやすく伝わるよう、リーフレットを市で作成した。
- ・ 年度初めの小中学校養護教諭との会議で説明時間（15分）を確保し、令和4年度対象予防接種について、対象者・案内方法をまとめた説明書を配布し説明した。

○ その他

- ・ 「子宮頸がん予防啓発プロジェクト」を立ち上げた。市内医師会の協力のもと実施要領を作成。目的に賛同した医療機関や市内企業にポスターやリーフレットを配布し、市民に幅広い周知を協力いただくよう呼びかけた。
- ・ 民間団体との共同企画でYouTube Liveを開催。産婦人科医や大学生、市の職員が登壇し、座談会を生放送。Twitterでは、4と9の付く日に子宮頸がん関連のツイートを実施。独自のハッシュタグを付けて継続投稿している。

調査2「HPVワクチンにおける情報周知の実態に関する調査」調査結果⑦

HPVワクチンの情報周知で担当者が感じている課題（自由記載から抜粋）

○副反応・健康被害に対する不安感、接種者数の伸び悩み

n=491（記入のあった自治体数）

- ・ 2013年の副反応報道により、未だに不安を感じ接種を見合わせている方が多い。子宮頸がん発症予防に関するエビデンスが海外では得られており、日本においても不安要素の払拭に向けた積極的な情報提供等が必要だと感じる。
- ・ 副反応（リスク）ばかり気になって、効果がいまひとつ伝わっていない。
- ・ 過去に副反応について、メディア等で多く報道されているため、通知のみではなかなか接種率が上がらない状況。

○対象者への情報の届け方（手段、伝え方）

- ・ HPVワクチンの対象者の世代は行政との接点が少なく、個別通知以外に広く周知することが難しいと感じている。
- ・ 特にキャッチアップの対象となる世代は親元を離れていることが多く、本人へ通知（情報）が届きにくい。
- ・ 今までの経緯からネガティブなイメージがある人も多く、正確な情報を伝えようとするとも情報量がかなり多くなる。端的に伝えないとわかりにくい人と、詳しく知りたい人との間の差が大きく、こういった内容で情報提供するのが難しい。

○医療機関への情報提供

- ・ HPVワクチンを接種する医療機関に対して情報提供を行っているが、医療機関によって知識の差がある。
- ・ 医療機関に正確に制度（対象者や対象期間）を理解してもらうことが難しい。

○教育機関との連携

- ・ 学校（教育機関）の理解と協力が得にくい。女性の健康づくりやがん検診の受診勧奨と一緒に意識づけしたいが、難しい。
- ・ 接種対象者は、HPVやワクチンについて知識も学ぶ機会もなく、単に情報を届けるだけでは接種に結びつかないと想定する。「学童期の情報提供」が非常に重要と考えるが、教育分野における周知・啓発は容易ではない。

○対象者の関心の低さ

- ・ 接種対象者で無関心な方が多い。看護学生など、医療従事者を目指す方でもHPVワクチンに無関心だった。
- ・ HPVワクチンが子宮頸がんを防ぐことについて、あまり知られていない、そこまで危機的に感じていない層が多い。

○その他

- ・ 医学を専門に学んできた職員がいないので、周知後の市民からの問い合わせに十分な回答ができないことがある。
- ・ 接種券を送付しても保護者が被接種者（子ども）に見せず、被接種者本人は通知が来ていることを知らなかった事例がある。

調査2「HPVワクチンにおける情報周知の実態に関する調査」調査結果⑧

HPVワクチンの情報周知にあたり不足していると担当者が感じている情報 (自由記載から抜粋)

n=341 (記入のあった自治体数)

○HPVワクチンの安全性や有効性に関する情報

- ・リーフレット等でHPVワクチンの安全性について記載されているが、保護者や対象者からワクチンのリスクや安全性について聞かれることが多く、対象者向けの詳細なリスクや安全性について記載されている情報教材が欲しいと感じる。
- ・今までの研究内容を探し、深く読み込んで接種を検討する保護者はそこまでいないと思う。研究内容をわかりやすく示す資料(安全性、有効性)などがあればと思う。
- ・重篤な副反応の確率より、子宮頸がんになる確率の方が高い事をわかりやすく比較した情報。

○接種状況についての情報

- ・ワクチン接種をするか迷い、問い合わせをしてくるケースの場合、現在の接種率などを聞かれることが多い。
- ・他の人が打っていないから不安という理由で接種を控えるといった場面があった。安全性、有効性などの情報とともに、接種者数の増加状況なども安心材料の一つになると思う。
- ・接種が進む諸外国における接種者と非接種者の罹患率の比較の数値など。

○病気についての情報

- ・子宮頸がんにかかってしまうことで、子どもを産みたくても産めなくなったり、罹患者が若くして亡くなってしまったりすることがある。世界的に見ても接種率が低い日本において、より多くの人に子宮頸がんの現状を理解してもらうことが急務。
- ・若い世代は、がんを身近な病気と考えていない可能性がある。性教育とも関連するが、感染経路や子宮頸がんという疾患についての情報もより必要と考えられる。

○外国人の方に提供するための情報

- ・海外の方から、HPVについての問い合わせや接種希望が多いため、窓口等で説明に時間を要している。

○その他

- ・マンガを活用するなど、簡単に読んでいただける資料。
- ・ワクチンのリスクより予防効果が大きいことの事例や、医師から子宮がんが亡くなったお母さんの事例や医師のワクチン推奨の意見などをどんどんアピールしてほしい。マスコミからも時折市民の心に響くメッセージを啓発してほしい。

HPVワクチンに関する調査

調査結果から示唆される課題と、必要と考えられる対応

示唆される課題

■ 接種対象者や保護者における認知向上の必要性

(接種対象者) HPVワクチンや制度に対する認知・関心が低い

- 接種対象者本人のうち、HPVワクチンについて「知っている」「少し知っている」と回答したのは半数未満であった。
- キャッチアップ接種については、対象者本人の半数以上が「知らない」と回答した。
- 「接種対象者で無関心な方が多い」「(子宮頸がんについて) 危機的に感じていない」等の課題が挙げられている。

(保護者) 保護者への周知強化の必要性

- 対象者本人では約2割の人が、健康に関する情報・HPVワクチンに関する情報をそれぞれ家族から得ていると回答した。
- 接種したことがある人の3割以上が「母親が接種を勧めていたから」接種したと回答した。

■ 接種に対する不安感の軽減につながる情報提供の必要性

- 「HPVワクチンは安全でないと思う」「接種を判断するための十分な情報が得られていない」等の理由で、接種の判断を保留している。
- 全体の約4割の人が「接種により以前報道で見たような健康被害が起きるのではないかと考えている」と回答した。

■ 自治体での効果的な情報提供の必要性

- 厚労省が作成したリーフレットを、自治体HPまたは窓口で掲載・配布している自治体は、全体の半数程度であった。
- 接種対象者世代への効果的な情報の届け方に苦慮している等の課題が挙げられている。

必要と考えられる対応

- キャッチアップ接種の対象者や、HPVワクチン接種対象者の保護者を中心に、HPVワクチンを含む子宮頸がん予防の重要性について認知を上げるため、SNS等を通じた積極的な情報発信を強化していく。

- 接種に対する不安感に寄り添った情報提供のあり方について、接種対象者や保護者等の意見も聞きながら、必要な情報や適切な媒体、伝え方について検討する。

- 個別通知への同封などリーフレットの活用の拡大を促すとともに、本調査で寄せられた取組事例を自治体担当者にも提供することで、より効果的な情報提供の実施を促していく。

接種対象者
/保護者

自治体